

異常少雨

秋の深まりとともに色づいた木の葉に冷たい秋雨が降る風情が物悲しくも季節の深さを感じさせる。今年はその雨も降らず仕舞いで、平月の雨量は一〇六年ぶりの記録的な少雨で秋色の冴えがない。山ではどうだろうかと晩秋から初冬の季節の八ヶ岳を歩いてみた。平地は紅葉の盛りで山の中腹のカラマツ林が黄色に色づいていたが、やはりいまひとつ色に冴えがない。二〇〇〇を越すあたりからは、冬枯れの木々となつて、道には最近降った凍雨のような白い雪のつぶが薄く残っていたが、本格的な雪はついに姿を見かけなかった。少雨傾向の恩恵を受けて天気は快晴、山頂からの360度の眺望は素晴らしく、北アルプスの稜線がすでに真っ白で、あれが穂高連峰、あれが白馬岳、妙高にも雪が：と、青い空を区切るように白い峰々が浮かんでいた。ところが八ヶ岳から南アルプは雪がない。山に向かう高速道路から遠望した富士山も雪はなし。三十七六の富士山でなぜ今年は雪がないのだろうか疑問をいだく人も多い。記録的な少雨が密接に関係し、

理由はこうである。

北アルプスの山々の雪は、冬の季節風の吹き出しで日本海にできた雪雲が押し寄せ、平地で時雨でも標高の高いところでは雪となって積もるのである。十月始めにすでに吹雪に見舞われた北アルプスでは、真冬に近い寒波が次々に襲来して早々と山々を白く飾ってしまった。ところが日本列島付近には秋雨前線の姿もなく低気圧も通過してくれない。富士山の雪は低気圧に伴って降る雨が上空では融けずに雪となって積もるのである。日本列島が記録的に雨が少ないという今年は、本格的な雨が降らずに、富士山、八ヶ岳や南アルプスといった太平洋側にならぶ山々には雪が届かないのである。

なぜこの異常な少雨かを説明するのは難し世紀最大規模に成長したエルニーニョ現象と関わりがとりざたされているが、秋の季節の日本付近の天候は偏西風と北極の寒気の勢力とその強さに支配されている。

エルニーニョという海水温の異常さが、東南アジアの少雨など地球規模の大気の流れに異常さ招いている。それが偏西風の流れを変え日本にも影響してきたのだろうか、そのカラ

クリは複雑でまだナゾが残されている。

村松 照男